

山野ニ最モ多シ、春舊根ヨリ苗ヲ生ジ、藤蔓繁延ス、葉形橢ニシテ尖リ、本ニ一缺アリ、深綠色、光澤ニシテ厚ク、兩兩對生ス、小ナル者ハ長サ一寸餘、大ナル者ハ四五寸、莖葉ヲ斷ズレバ、白汁出、夏月葉間ニ穗ヲ生ズ、長サ一二寸、小長花ヲ開ク、五瓣ニシテ形鈴鐸ノ如シ、白色紫點雌ナル者ハ莢ヲ葉間ニ生ズ、穗上ニ生ゼズ、長サ三四寸、徑リ一寸許、體圓ニシテ末銳ナリ、皮ニイボアリテ、胡瓜ノ如シ、嫩ナル者ハ麪ヲ纏シ、油煎シ食フベシ、葉モ亦同ジ、莢熟スレバ、殼紫色ヲ帶ブ、堅ニ自ラ折テ舟ノ形ノ如シ、内ニ白絨アリ、針ノ如シ、針根ゴトニ一子アリ、形圓扁ナリ、其針風ヲ見レバ、便チ張リ開テ綿ノ如シ、白光銀ノ如シ、然レドモ碎ケ易クシテ、絲トナスベカラズ、甚木綿ニ似タリ、故ニ俗ニ和ノパンヤト云フ、此綿ヨク血ヲ止ム、秋深テ苗枯ル、其藤皮中ニ白絲アリ、甚強ク釣繒トナスベシ○中略

増、蘿摩ノ生實ヲ麪ニ裹ミ、油燂トシ、醬油ニテ煮食ヒ、又生葉ヲ燂キ、茹ト爲シ食フ、共ニ味佳ナリ、又葉ヲ陰乾シテ、炭上ニ焚ケバ、諸臭氣ヲ去ル、

〔廣益地錦抄〕<sup>五</sup>蘿摩 蔓草なり、冬は枯れて春宿根より生ズ、葉はを長くあつく、兩對にして表にうす白く筋あり、根をほりて火にあぶり食す、甚甘し、葉切れば白く汁出る、赤腫にぬりて早くいたみを止ていゆ、葉莖を日に乾焼ば、惡臭をけす也、花はみるにたらず、實はほそ長く三四寸計有さきとがりてへちまのごとく、秋の末熟し、かれて二つにわれ、中より綿のごとく成物多く出、取て、敷物の綿としてやはらか也、しめり地に生、蘆原の中に多く生、

〔古事記〕<sup>上</sup>故大國主神坐出雲之御大之御前時、自波穗乘天之羅摩船而、内剝鵝皮剝爲衣服、有歸來

神○下

白兔藿

〔本草和名〕<sup>七</sup>白菴藿、一名白葛、<sup>出蘇</sup>一名白葛穀、一名菴藿、<sup>已上二名唐</sup>

〔百品考〕<sup>上</sup>白兔藿、一名白葛、一名牛皮消、和名イケマ